

夢舞台を選手体感

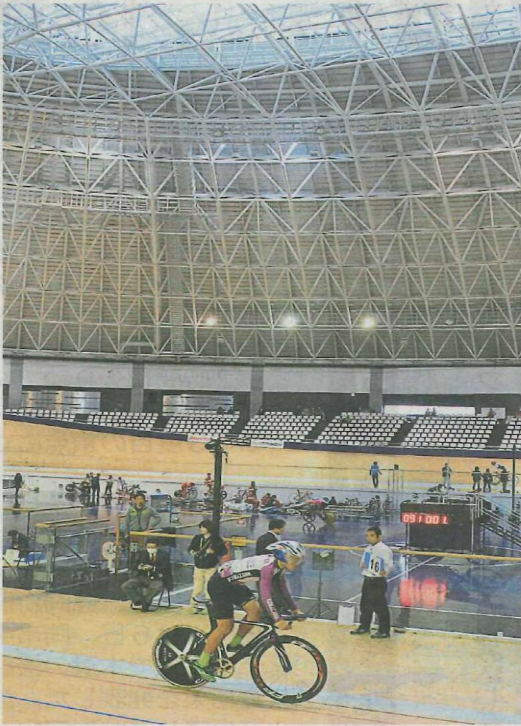
開催決定後、初の大会

60代まで100人疾走

伊豆ベロドローム

伊豆市の日本サイクルスポーツセンター内の伊豆ベロドロームで12日、2020年東京五輪自転車競技開催が決定してから初めての大会が開かれた。5年後に夢の祭典が繰り広げられる舞台を、選手たちがかみしめるように疾走した。

県自転車競技連盟主催の「ワンデー・トラックレース・ウインターシリーズ」と題した大会には、県内外の小中学生から60代の約100人が出場。年齢や男女別で20種目以上のレ



五輪開催決定後、初めての大会が開かれた伊豆ベロドローム。選手たちの気持ちも高まる

12日午後、伊豆市

ースが行われた。「五輪は出たい大会。ここでやるんだと少し想像して走った」と話すのは中学生の部の200kgと1kgのタイムトライアルに出場した高梨万里さん(14)。

高梨万里さん(14)は宮土宮市。父の影響で6歳から同センターに通い、競技に取り組んでいる。イタリアの名選手マリオ・チポリーニが名前の由来と、家族から大きな期待を集める高梨さんは「同世代のトップクラスを目指していきたい」と力を込めた。

「今からわくわくしています」と語るのは沼津市の農業山本哲也さん(61)。競技歴は約5年だが、今年の全日本選手権マスターズでは2種目で優勝を果たした。「五輪開催をきっかけに興味を持つ人が増え、競技者の

輪が広がれば」と願う。大会の合間には、来年1月に開催されるアジア選手権大会をPRするイベントが行われ

【ストックホルム共同】ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智・北里大特別荣誉教授(80)は12日午後(日本時間同日夜)、一連の行事を全て終え帰路に就いた。帰国後について「私自身は変わらな

大村氏、梶田

外にある賞の創設者アルフレド・ノーベルの空港に向かう途中で、ストックホルム郊外にある賞の創設者アルフレド・ノーベルの

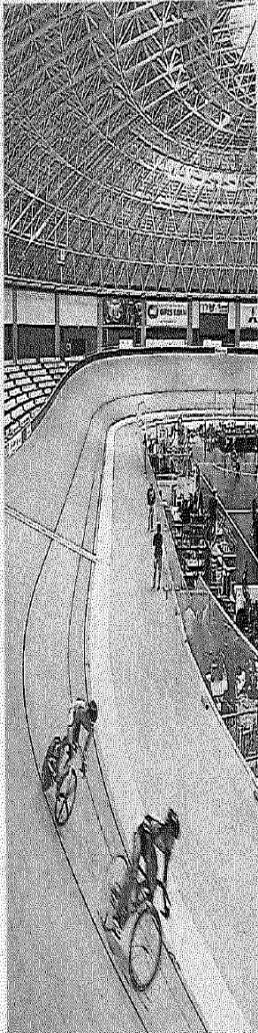
東京五輪自転車競技トラック種目伊豆の会場

地元選手 決意新た

決定後初の競技会

2020年東京五輪の自転車競技トラック種目開催が決まった伊豆市の屋内自転車競技場「伊豆ベロドローム」で12日、決定後初となる競技会が開かれた。会場では、地元選手らが五輪への決意を表明した。

県自転車競技連盟と県は、五輪への機運を盛り上げようと、会場でトップ選手らによる試走とインタビューのイベントを開いた。伊豆の国市在住で、北京、ロンドンと二度の五輪に出場した渡辺一成選手(32)は「地元開催はうれしい。日本チームがいい成績をあげられるようがんばっていきたい」と話した。現在は伊豆土市出身で、現在は伊



東京五輪自転車競技トラック種目の会場となる伊豆ベロドロームで開かれた競技会。伊豆市大野

豆市の日本競輪学校に通う鈴木奈央選手(18)は同年代のトップ選手。「小さいころから五輪出場が夢だった。

それが自分の練習拠点のベロドロームである。地元への感謝を込め、大舞台で輝きたい」と力強く語った。

トップ選手、走り披露

五輪自転車 伊豆開催PR

二〇二〇年東京五輪の自転車競技の会場に決まった伊豆ベロドローム（伊豆市大野）で十二日、自転車競技をPRし五輪開催を盛り上げようと、元五輪選手らが競技の面白さや五輪への意気込みを伝えるイベントがあった。

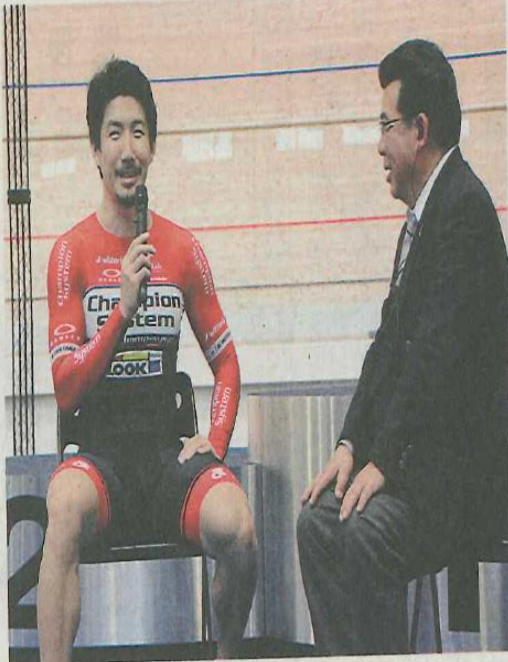
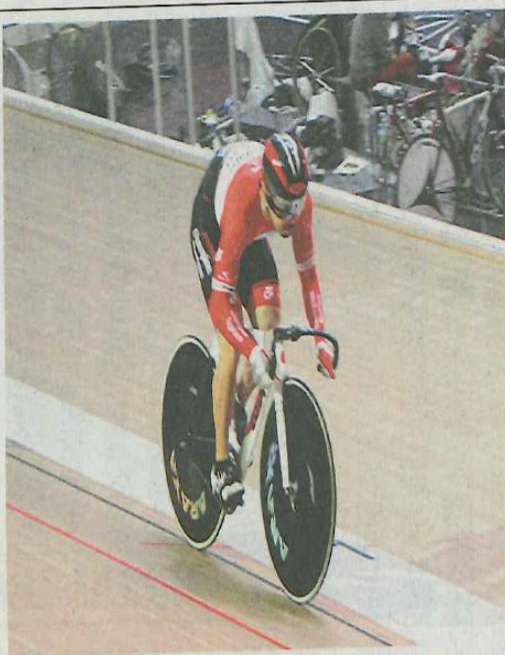
全国の自転車選手百人が集うレース大会に

合わせ、県と県自転車競技連盟がイベントを企画した。北京、ロンドン五輪に連続出場して入賞経験のある渡辺一成選手（三ツや、今年のパラサイクリング世界選手権で入賞した藤井美穂選手（三ツ）が参加した。渡辺選手らはエキシビションで走りを披露し、会場の高校生や大学生は国内トップ

クラスの選手の姿に見入っていた。

伊豆の国市在住で、伊豆ベロドロームを練習拠点にする渡辺選手は「五輪会場に決まってうれしい。多くのお客様さんに見てもらうには選手の活躍が必須なので、頑張っていきたい」と話した。藤井選手は「東京パラリンピックでの金メダルが目標。この舞台でメダルをかけてもらいたい」と意気込んだ。

（熊崎未奈）



①エキシビションで走りを披露する渡辺選手 ②伊豆ベロドロームでの東京五輪開催へ期待を語る渡辺選手 ③伊豆市大野の伊豆ベロドロームで